

大分県長期漁海況予報

〔令和3(2021)年8月～12月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<令和3年4月～令和2年7月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、3月～4月は概ね離岸傾向、5月以降は概ね接岸傾向で推移しました。
- ・足摺岬沖では、3月上旬は「接岸」～「やや離岸」で、3月中旬～5月上旬に「かなり離岸」～「著しく離岸」で推移した後、5月中旬以降は「接岸」～「やや離岸」で推移しました。
- ・A型(大蛇行流路)が持続しましたが、3月中旬～4月初旬と、5月上旬～中旬の一時期に八丈島の南側を通過する非典型的なA型流路となりました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月は「やや高め」、5・6・7月は「平年並」で推移しました(図1)。

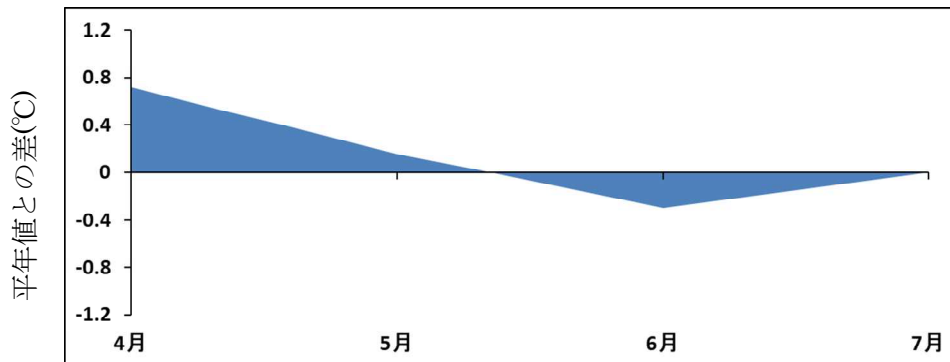


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4・5・6月は「やや低め」、7月は「平年並」で推移しました(図2)。

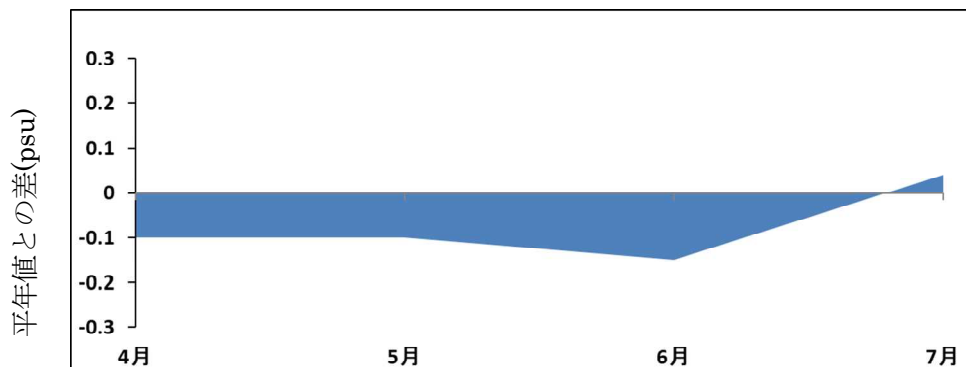


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

■マイワシ

□2021年4～6月の漁況経過

2021年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は 544トンで、前年比41%、平年比16%(1986年～2020年の平年値)と、前年・平年を下回りました。4月～5月の水揚の主体は、被鱗体長^(用語解説①)6.0 cm～7.0 cm前後の2021年級群(0歳魚)であり、6月はこれらの個体群に加え14 cm前後の2021年級群(1歳魚)の個体群も確認されました。なお、近隣海域^(用語解説②)では宮崎県は前年の396%、愛媛県は前年の18%、高知県は前年の231%の水揚量となっております(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月の前年比)。

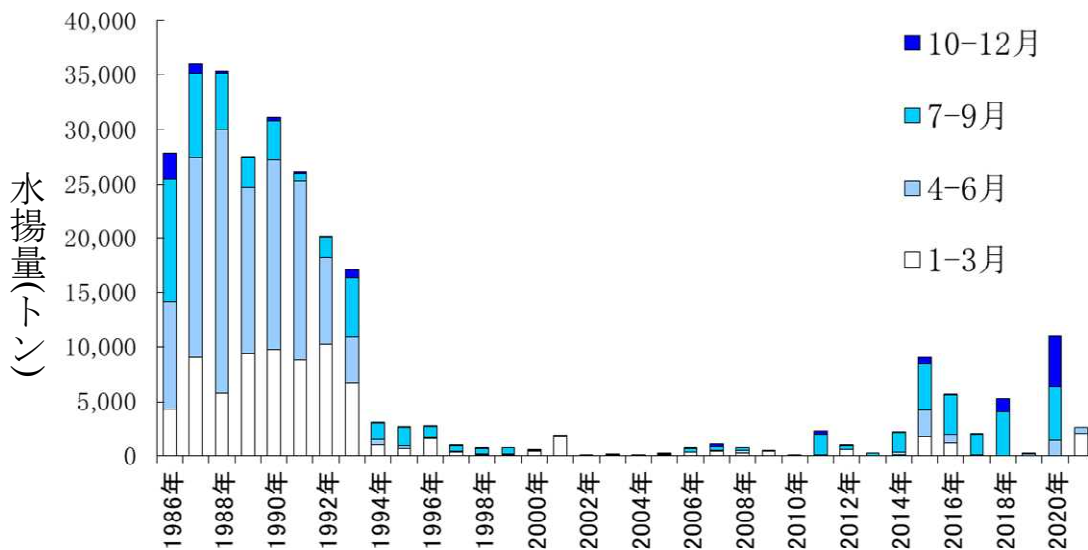


図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年8～12月>



来遊量:

豊後水道への来遊量は、極めて好調であった前年を下回るでしょう。(2020年8～12月: 7,782 トン)

水揚対象年級群および体長:

8～12月は被鱗体長12～18cmの0歳魚(2021年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中は2021年級群(0歳魚)が水揚の主体になるでしょう。2020年は例年と比較してマイワシの漁獲量が極端に多い年でした(2020年の年間漁獲量は11,049トン、直近10年2011～2020年の年間漁獲量の平年値は385,7トン)。このため、2021年8月～12月の来遊水準は前年を下回ると予測しました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2021年4～6月の漁況経過

2021年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は148トンで、前年比14%、平年比23%(1986年～2020年の平均値)と前年・平年を下回りました。水揚の主体は、被鱗体長^(用語解説①)6.0 cm～7.5 cm前後の2021年級群(0歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の156%、愛媛県では前年の864%、高知県では前年の223%の水揚量となっています。(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月の前年比)。

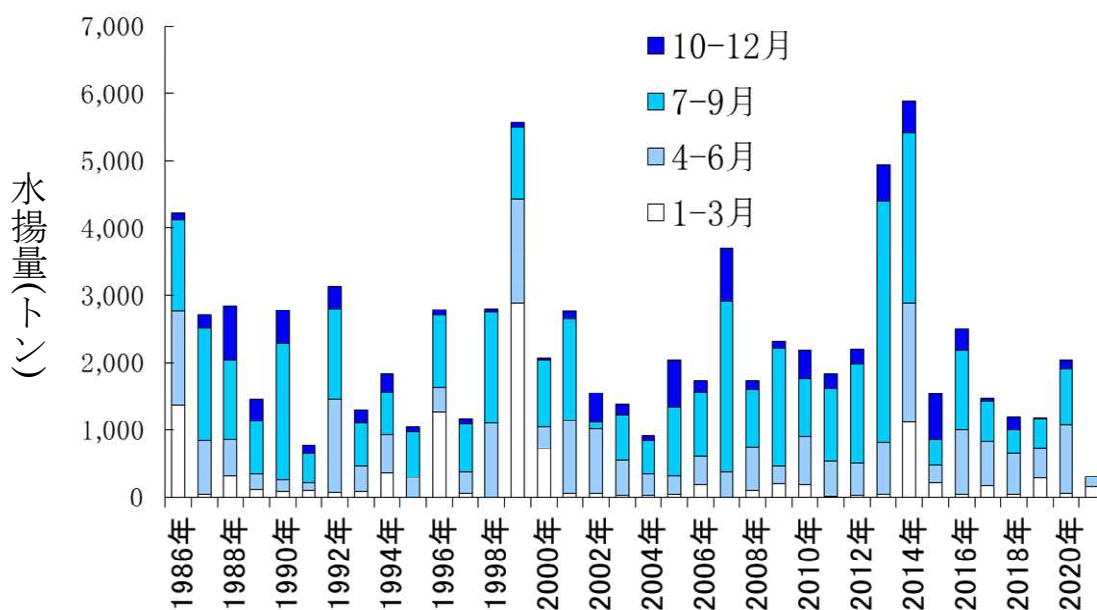


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年8～12月>

来遊量:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2020年8月～12月:599トン)



水揚対象年級群および体長:

8～12月は被鱗体長10 cm前後の2021年級群(0歳魚)主体に2020年級群(1歳魚)が混じるでしょう。

【説明】

2021年級群(0歳魚)が水揚げの主体であった1月～6月の水揚量が前年を下回っていることから(前年比15%)、8月～12月の来遊水準は前年を下回ると予測しました。

■ウルメイワシ

□2021年4～6月の漁況経過

2021年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は449 トンで、前年比242 %、平年比228 %(1986年～2020年の平均値)と、前年・平年を上回りました。水揚の主体は被鱗体長^(用語解説①)6.0 cm前後の2021年級群(0歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の312%、愛媛県では前年の183%、高知県では前年の145%の水揚量となっています。(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月の前年比)。

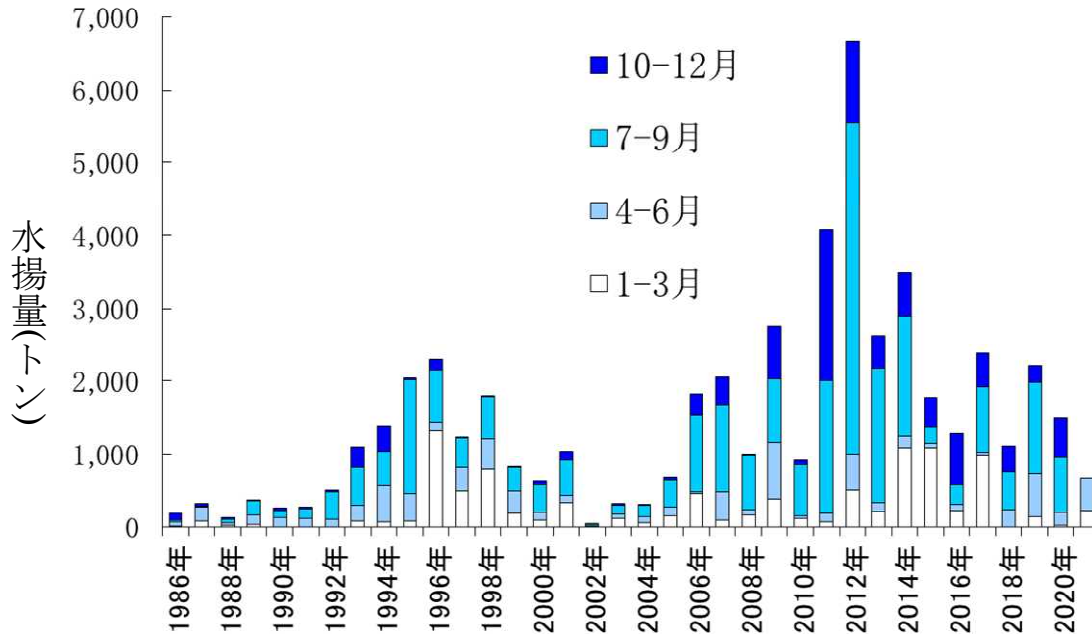


図6 まき網によるウルメイワシの水揚量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年8～12月>



来遊量:

豊後水道への来遊量は前年を上回るでしょう。(2020年8月～12月:1,116 トン)

水揚対象年級群および体長:

8～10月は被鱗体長10～15 cm前後の2020～2021年級群(0～1歳魚)主体となるでしょう。

【説明】

2020～2021年級群(0～1歳魚)が水揚の主体となる4月～6月のまき網水揚量が前年を上回ったため、8月～12月の来遊水準は前年を上回ると予測しました。

■マアジ

□2021年4～6月の漁況経過

2021年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚量は254 トンで、前年比119 %、平年比52 % (1986年～2020年の平均値)と前年並で平年を下回りました。水揚の主体は、4月は尾叉長^(用語解説③)14cm前後の2020年級群(1歳魚)が主体で、20 cm以上の2019年級群以前(2歳以上)のものとみられる個体も混じりました。5月は尾叉長16 cm前後の2020年級群(1歳魚)が主体となり、6月は測定尾数が少ないものの尾叉長11cm前後の0歳魚と思われる個体も出現しました。

なお、宮崎県では前年の744%、愛媛県では前年の74%、高知県では銘柄「あじ」が前年の236%で銘柄「ぜんご」が前年の135%の水揚量となっています。(宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比)。

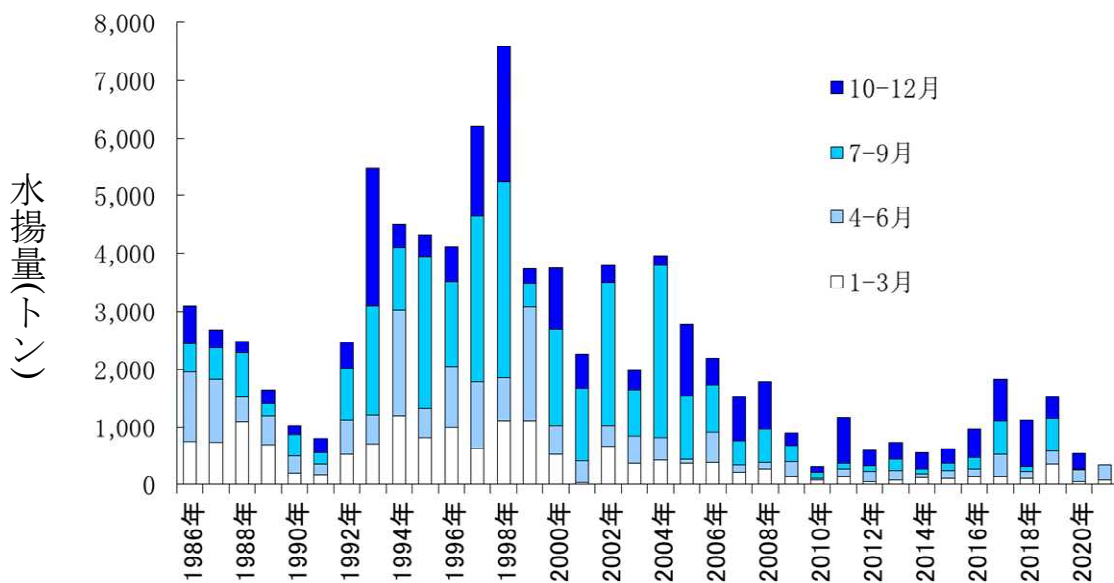


図8 まき網によるマアジの水揚量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年8～12月>



来遊量:

豊後水道への来遊量は低調であった前年並でしょう。(2020年8月～12月:269 トン)

水揚対象年級群及び体長:

尾叉長15 cm前後の2021年級群(0歳魚)が水揚の主体となるでしょう。

【説明】

1月～6月における豊後水道南部主要3港の水揚量は前年並みであり、低調な漁獲が続いています。マアジ太平洋系群の資源動向は減少傾向と判断されており、加入量は2009年以降低い水準で推移しています。近隣県の情報では、日向灘や豊後水道東側においては当歳魚の来遊が少なく、水揚に期待が持てません。一方で、前年の漁獲量は過去2番目に低い値であったことを考慮し、来遊水準は低調であった前年並と予測しました。

■サバ類

□2021年4～6月の漁況経過

2021年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の水揚量は299トンで、前年比13%、平年比25%(1986年～2020年の平均値)と前年・平年を下回りました。水揚の主体はマサバで、4月は尾叉長^(用語解説③)22 cm～28.5 cmの2018～2020年級群(1～3歳魚)と尾叉長33.5cm以上の2018年級群以前(3歳以上)でした。5月は尾叉長21～25 cmの2019～2020年級群(1～2歳魚)、6月は尾叉長10.5～17 cmの2021年級群(0歳魚)が主体となりました。

なお、宮崎県では前年の49%、愛媛県では前年の94%、高知県では前年の64%の水揚量となっています。(宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比)。

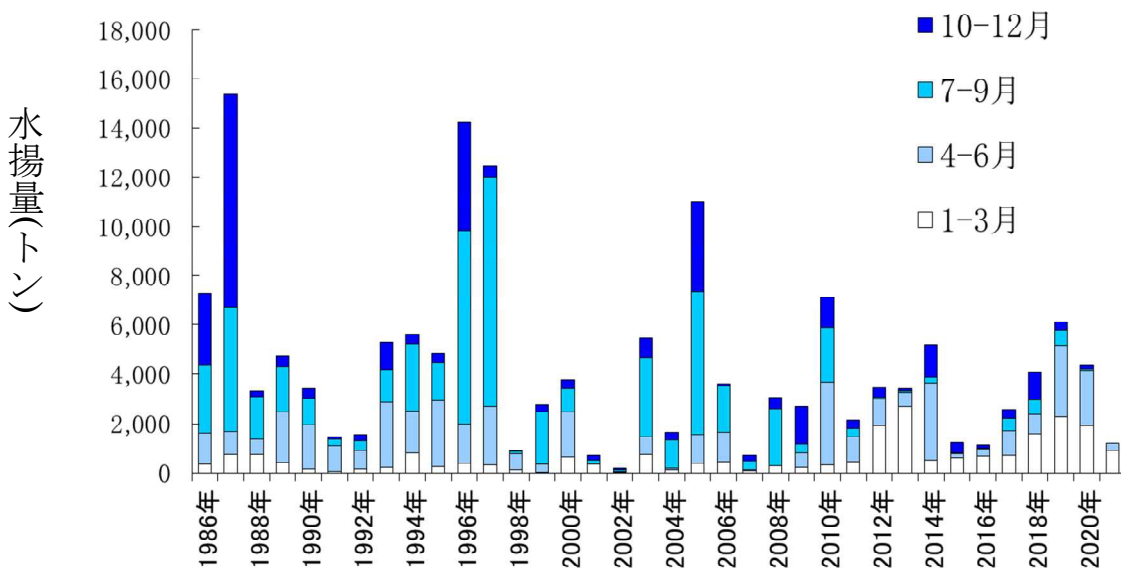


図9 まき網によるサバ類 (マサバ・ゴマサバ) 水揚量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2021年8～12月>

来遊量:

豊後水道への来遊量は、低調であった前年並でしょう。(2020年8～12月:235トン)



水揚対象年級群および体長:

これまで期間中は、尾叉長20 cm～30 cm前後のゴマサバ0～1歳魚が主体となっていましたが、2016年以降は月によってはマサバ0～1歳魚が主体となっており、今期も水揚げの主体となる可能性があります。

【説明】

これまで、期間中はゴマサバ0～1歳魚が主体となっていましたが、資源状態を考慮すると来遊に期待が持てません。一方でマサバ太平洋系群は資源状態が良好なことから、下半期も水揚の主体となる可能性があります。しかし、上半期の水揚が前年を大きく下回っていることから、サバ類全体としては低調であった前年並としました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「令和3年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類など長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っております。

URL: <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/index.html>

■用語解説

- ①被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域：ここでは、3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央（くびれている部分）までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155
FAX:0972-32-2156